

□議員名：藤岡修美

1 「協創のまちづくり」の理念とスマイルプランナー登録制度について

| | |
|----|--|
| 論点 | 協創という理念を持ち込むことで、これまでと何が違ってくるのかを聞く。 |
| 回答 | 協創とは、市民や各種団体などと行政がともにまちをつくっていく取組で、この取組を通じて育まれるシビックプライドが多くの市民の心に芽生え、さらに多様な協創の取り組みが行われることが、住みよい暮らしの創造につながっていく。 |

| | |
|----|--|
| 論点 | スマイルプランナー登録制度において、登録することにどのような意味があるのかを聞く。 |
| 回答 | この制度は、まちづくりに活躍している人や役に立ちたいと思っている人が、協創のまちづくりを実現していくための意識醸成や、人や情報の交流環境を整えることを目的とした制度で、これを基盤の一つとして、協創のまちづくりを今後本格的に推進していく。 |

2 「第二次総合計画に掲げる重点プロジェクト」におけるスマイルアップ重点プロジェクトを推進について

| | |
|----|---|
| 論点 | レノファ山口とのパートナーシップ事業の現状と、この事業がスポーツによるまちづくりにもたらす効果について聞く。 |
| 回答 | レノファ山口を我がまちのチームとして応援することで、愛着、自慢、誇りが生まれ盛り上がることで、他のスポーツやイベントの呼び水となることでスポーツによるまちづくりの推進に寄与することとなると期待している。 |

| | |
|----|--|
| 論点 | キャンプ誘致推進補助事業の現状と、この事業がバリアフリーのまちづくりにもたらす効果について聞く。 |
| 回答 | 日本パラサイクリング連盟が行う東京パラリンピックのキャンプに係る費用の一部を支援をしており、これを一つの契機として、障害者や高齢者が社会生活に参加する上での障壁を取り除くなど、誰もが暮らしやすい社会環境の整備に向け検討を重ねていく。 |

| | |
|----|--|
| 論点 | 「中学生海外派遣事業」の現状と、この事業が姉妹都市交流にもたらす効果について聞く。 |
| 回答 | 本市とモートンベイ市の交流を図り、国際感覚を持った次代を担う人材を育成することを目的に、これまで250人以上の生徒、引率者を派遣してきたが、交流を活発にするために、姉妹都市交流の新たな可能性を探る時期に来ていると考えている。 |

| | |
|----|--|
| 論点 | ハロウィンイベント事業が活力と笑顔あふれるまち～スマイルシティ山陽小野田～の実現にどのように結びついていくのかを聞く。 |
| 回答 | プロジェクションマッピング等の参加型イベントを開催し、本市の芸術、文化、景観、行事、人物、物産等の魅力を大々的にPRするとともに、期間中各所で開催されるイベント等の連携を図ることで、市内全域における交流人口の増加を狙うことを目的としている。 |

| | |
|----|--|
| 論点 | 都市計画マスタープランの作成が、「用途地域見直し事業」にどのように結びついていくのかを聞く。 |
| 回答 | 用途地域の見直しは、都市計画マスタープランの土地利用の方針に基づき進めていく。高千帆地域については、都市拠点という位置づけからも計画的に市街地を誘導すべき地域として、適正な土地利用を図れるよう用途地域の指定を検討したいと考えている。 |

| | |
|----|--|
| 論点 | 都市計画マスタープランの作成が、「農業振興地域整備計画事業」にどのように結びついていくのかを聞く。 |
| 回答 | 市街地内で都市機能の集積や都市基盤施設の整備を進め、その周辺の自然環境や農地などの田園環境については保全を図る。農地への用途指定は、治水対策を考慮し、農業振興に係る土地利用等との調整を図りながら、見直しを進めていきたいと考えている。 |

※一般質問(代表質問)における論点について、わかりやすくまとめる。

文字は12ポイントで統一し、ひとり3枚以内とする。

1つの論点と回答につき、論点は2行程度、回答は4行程度とする。